



み  
ず  
つ  
き

4

Twitter 短歌クラスタ有志  
2015年 初夏の合同短歌集

みずつき 4

Twitter 短歌クラスタ有志  
2015年初夏の合同短歌集

: 発行 :

2015. 06. 01.

: 短歌 :

短歌クラスタ有志の皆さん

: 企画・編集・装丁・制作 :

千原こはぎ

: Photo :

cfourcalvin

首井灯	大葉れい	きよん姫	佐々木通	千原こはぎ	成瀬山水	古井久茂	望月万里葉
新井蜜	萩森美帆	希和子	笹谷香菜	Chara	新名リオ	星乃咲月	守嶋牧緒
有村桔梗	かざえ	草野浩一	一佐藤元紀	月下 桜	ニキタ・フユ	松木 秀	焼きみかん
安野文磨	風橋平	工藤吉生	さとうはな	ていん	西村湯呑	まみ	梁川梨里
五十嵐えみ	葛紗	栗栖莉乃	塩谷風月	土井礼一郎	沼尻つた子	みずほ	矢野和葉
生田亜々子	風野瑞人	鶏尾ねじ	紫苑	富樫由美子	野々川糸子	Esoto	悠佳里
石川順一	ガツキ	河野遙	嶋田さくらこ	とき	羽島かよ子	南瑠夏	雪
伊豆みつ	河嵩レイ	香村かな	春麗	とみえひろこ	原沙良葉	衣夫(みみ)	りりー
いないずみ	川庭多機構	瀬戸もり	スコラブ	中村成志	春森糸愛	宮木水葉	ルイドリツコ
岩田あを	気球	小早川	たえなかず	なこあーる	東ころ	宮嶋いつく	蓮
泳二	きつね	西藤定	たかはしりお	七波	ヒロマル	麦野結香	わんこ山田
大木はち	木原ねこ	桜葉明美	立川葵	七海奏一郎	笛地静恵	虫武一俊	(敬称略・五十音順)
太田青磁	木村 美映	佐倉麻里子	播	並木真秀	福山桃歌	村田馨	

Twitter短歌クラス有志による  
2015年初夏「水」がテーマの合同短歌集  
102 persons, 612 tanka.

# みづつき4

## 解放戦線

蠟燭が揺れて祝祭の日は雨 きうあいつの海が死んだよ  
裏切りのかおりだ二度とわらうなよ沈める滝の底に誰かいる  
このからだ干からびる頃逢う人に伝える君のさいご言葉  
歯車に生命の水をぶち撒けた にくしみならばもう動かない  
旋律は崩れて朗々ひかりさすモルダウ向いて両手をあげろ  
舞うかもめだけを証にテセウスの帆をあげられ 無影の海へ

蒼井 灯 @heavenlybueb

## 壊れたことは

降りやまぬ夜来の雨に悲哀さへ流されてゆく急流となり  
昨日まできみの内なる濁流が氾濫してた花咲く野辺に  
おほいぬのふぐりの花の空のいろ映す川面を揺らすささなみ  
湖水には壊れたことは浮き沈む詩的言語は息苦しくて  
ごぼごぼと潜つては浮き生きてゆく物語られる海を抱へて  
おとがひゆ滴るみづをくちびるに受けてあぢはふ海をあをいろ

新井蜜 @araimitsu

## 海が見たくて、恋がしたくて

うみうみ海が見たくて走り出す似合わぬ色のサンダル履いて  
砂の城崩れてしまうことよりもあなたとキスをするのがこわい  
のみこまれないか不安でひたすらに水平線を眺めて泣いた  
サヨナラのおいは恋にはつきものだあなたの耳たぶ越しにみる海  
不器用なふたりは狭いバスタブで恋をしていた生きていられた  
「笑っても泣いても恋は終わるもの」シャワーはいつものぬるさで流れる

リリー @s\_river\_lily1

## 水曜日

始業前「まだ水曜か」と言っておき「もう水曜だ」と居酒屋巡る  
水の日はひとりぼっちの休日でも大きな砂漠のように  
どんな日もダーツの先で村人が笑っているしこの国が好き  
悲しみが伝えられてその裏でホンマでつかと笑い飛ばす人  
どん底を乗り越えたから今笑い笑わせられる三人の党  
水曜は残業ないって言ったから君と水曜ずっと待ってる

蓮 @Hasunohana1114

## 雨の匂い

カフェエテを分けあっている口紅を気にしなくていい黒いストロー  
この雲の下だけ雨が降っていて濡れない人と並んで歩く  
ごめんねの電話が鳴って水玉は数えるまもなくぬりつぶされる  
聞くまでもないこと聞いてふりむけば雨の匂いがちがついてくる  
霧雨に濡れないような木ので予想を超えた一撃くらう  
立葵もう枯れるからあいにくしてろしをを選んで渡る

ルイド リツコ @rittaocca

## 寄り道ー疑似豪雨

いつも夜 いつも寄るよね本当に二人つきりになれる気がして  
豪雨めくセルフ洗車機しばらくのしじま二人でかみしめている  
もし肩が髪が濡れてもかまわない相合傘はいつも濡れるよ  
溺れると感じた波が遠ざかりまた寄せないか待つてる背中  
たまになら泣いたっていい助手席の涙は雨にカゼえられます  
水滴をまとったままで走り出すへたな仔犬の身震いを真似て

わんこ山田 @wankoyamada

## みずみずしいみず

適量の雨を支えて傘をさすわたしの中のわたしのために地球という花台に活けた花たちは七割海の小島となりてビー玉と炭酸水の泡くぐりアンモナイトが闊歩する午後傘をさしわたしだけの部屋咎められずに言葉紡ぎを窓を挿く雨筋の線横切りて乾かぬうちに関かれる雲菜の花の海原越ゆる丘のうへかぎろひの葉は風花となり

梁川 梨里 @riri\_yanagawa

## 皮膚

二の腕をつたう汗まで舐めあえば名も知らぬまま別れて歩く虹よりも高いところに立っていて、ここまできても羽根が生えない指差され吾の立つ瀬は川向こう、対岸ばかり示されている朝焼けの色をならべて飲み干せば Good day or Good bye now. 目をつむり引き寄せる身は小さくて浴槽はたまた私の母胎静けさを静けさとして剝く桃のうすき皮膚にたまるいちにち

矢野 和葉 @kazuha828

## 50メートルのうみ

頭から青の世界に飛び込んだ誰にも見えない私になった奥深くずっと深くへもぐりゆく心も体も青く染まってもう何も今の私にや届かない耳を包むは水をかく音前後左右全てが青に包まれて他には何もいらぬ何も頭から余計なものは抜けてゆき清い私になれた気がしたいつまでも青の世界に沈みたい苦しい胸が許してくれない

悠佳里 @yukari\_rito

## みずいろ

地下街の思い出それはなないろに光を放ち動く水たちキラキラと小川が輝く野原にはコロポックルが住むと信じてたばかりかみたいにはしゃいだ夜も泣いた日もそばにいてくれた優しい流れオレンジの陽を浴びている荒川がまぶたの裏でいまもきらめく新しい長ぐつ履いた子供らの笑顔のためにやさしく降る雨ゆらゆらと記憶の海を漂って行きつ戻りつ幸せであれ

雪 @12yuki85

## しづかなテロル

真夜中のどうしやうもないわたしから水琴窟のやうな音するゆつくりとボタンひとつをはつすゆび 雨がちかづく匂ひがするねとぶとぶと夜のシンクでふえてゆくこのわかめから海をはじめ雨降りの世界に暮らすひとだらう体育座りで眠るあなたはみづからにみづを抱へてゐる星に生まれたひとをゆつくりと抱くおやゆびとひとさしゆびで開かれて点眼と云ふしづかなテロル

有村 桔梗 @chattendre\_k

## 川辺にて

川ぞひにニセアカシアのはなはさき久しき人ゆたよりとどきぬながれゆく川のみなもと知れぬままささ舟まねて水にながせりくりかえす海のきおくをうけとめて息をころせばとぎれとぎれにひざだちに天をあふぎて待ちのぞむある日どしやぶりのやふな儂倅あふれたる水はそのままながれおちふたたび天に召されて胸へこつちだと手とりて岸辺あゆめればニセアカシアの香りのなかに

安野 文麿 @hiromtk

## 忘れるための海

聞いていた車窓が走るひたむきに家を掻き分け海に寄り添う箱の中きれいに整頓されなくて離れ眺めてすこしだけ泣く放課後の景色の端に映り込むわたしは海を眺める人だわたしではない人がいるさよならはわたしの元に出戻ってきた頼まれた買い物はどうに済んでいてbissのリコッタパンケーキを待つ駅に行くサーフボードを持ちながら海へ歩いていく人を背に

五十嵐 えみ @info\_de\_emmy

## ここは水底

そばにいて欲しい誰かに届かないここは水底 静かな器神さまがいらない人生歩いている 雨はばらばら音を立てて冷蔵庫開けて悲しい 世界にはやまない雨がまた降っている水色のペンで書いても眠れずにくちなしに降る雨を見ている 雨上がり草は容易く手で抜けて生まれ変わりは信じていないどの雨も私に降った 借りものの言葉がやっと旅立ってゆく

生田 亜々子 @akoriz

## 水よ水

雨の日もテラスの下で花火やる家族の景が遠ざかり行く  
増水の地元の川の確認を小雨の中に行く勇氣かな  
日曜の夕暮れの雨は柔軟にメイストリートに出れば止んで居る  
遊泳の禁止の木の立つ河川敷浅瀬を泳ぐ家族連れかな  
何度でも簡易プールは蘇る宇宙の中でも郵便局でも  
水を欲る庭にある土ひあがれば轍が出来る自転車通る

石川順一 @Hitler57

## からだ

ありもせぬ子を撫でてゐる胎のなかにホルンの棲めるやうな氣のして  
傘に窓に花びらにぶつかつて散る雨の無数の死をきいてみた  
ピアノ譜の埃を掃へば水音のごときなまへをなぞる中ゆび  
鏡には女のかたちの吾ありぬヴィオラのふりをするには硬い  
空よりもむしろ速いといふでせう水を湛へて吾は楽器だ  
素から裸へそして死へどぼどぼつるりつひにジャズミンティーを飲み干す

伊豆みつ @confieo31

## where?

水際のおそびさみしくここからは夏にほどける花首を持つ  
透過する屈折率の違いさえ遠くしずかな禁忌となりぬ  
雨淡くわが菜園の花々をそそのかすまで濡れながらいて  
恋人の定義わからずずぶと水蜜桃にしずめる指か  
浮力より教わるものたしかさを逸らさずにゆけばつなつの夜  
素直さは水によく似る 目覚めえぬノアはいったどこにいるのだ

じなじなみ。 @inizmk

## ふたり 雨の日

君が着るシャツへと落ちる水滴がボルカ・ドットをやさしく描く  
転がった箱に落ちゆく雨をみて光っているよど君が咳く  
ふれさせる乾ききらないシャツの下肩紐細く熱が伝つて  
シャンプーと雨音だけが余りあつて外には出掛けられないシート  
ラジオから流れてくる予報により君が来る日はだいたい雨が  
まどろんだふたりを叱りつけるように天窗を叩く大粒の雨

岩田あを @AwoTnk

## 新幹線総合車両センター

水無月にビニール傘はつかの間の役割を終え永き眠りへ  
台風で電車は軒なみ減速す都市住民も馴れたるもので  
新幹線総合車両センターの洗車マシンの水しぶき疾く  
昼食のカレーライスの冷水のマグの滴の成長の跡  
冷却塔ポンプの稼働音が響りダクトに水が流れはじめ  
一日の仕事を終えて新幹線総合車両センターに雨

村田馨 @kaoru\_murata

## 雨もよう

何ひとつ言い返せないかなしみで充たされてゆく…水玉模様  
強がりのインクの青が滲んでゆく不確かなものばかり信じて  
カルピスの水玉模様も溶けだしてカランと少し夏が動いた  
この恋が欲しかったのかも分からずに傘をひらいた 海月になつて  
雨が窓にいたずらをして叩くから来る筈もないひとを待つて  
流されて海へひろがるこの恋に揺られてどこまで続くのだらう

望月万里葉 @perhonaribon

## 水無月

雨の夜無人の部屋にレーザーは赤外線を放射し続け  
現実を見たくないのだ雨の日のバスの座席のカレイドスコープ  
この海の向こうで君は今ピザを食べているのか誰かいるのか  
ゆずレモンサイダーの海時として私は世界に拒まれるけど  
その底に何があるかは見たくない上澄みだけを吸っていきたい  
シロップで言えばみぞれのかき氷ただ面白いだけの思い出

守嶋牧緒 @Galateia8726

## 人類はかつて海に棲んでいた

ここはかつて海であったと教えられ だとすれば海底にいる僕ら  
ふるさとを思い出させる雨が降るさなかを傘を差さずに行こう  
生物の起源を知れば人類は海に棲んでいた記憶を語る  
生涯にどれだけの水を含んでは吐き出しながら生きるのだろう  
部屋の観葉植物に水をやり土の呼吸音を聴いている  
数億年前の祖先を思いつつ湯船に沈むホモ・サピエンス

焼きみかん @t28823

## 草枕の日々に

句碑の立つ卯辰山より廻ることく光りぬ白山の雪  
夕雲に暗がり坂を降りぬれば浅野川には暮色溶けおり  
大原野連なり立ちぬ山霞べールとなりて人形包む  
五十鈴川どこまでも澄む空と雲襖する手に流れの温き  
江ノ電を待つか海原入るらむかつい惑ひつつホームにふらり  
水門の赤色映える頃たるか放水路には夏風の立つ

宮木水葉 @miyajimizuha

## 水の都に雨が降る

雨粒に紫陽花揺れる月照寺歩きたそうにしてる大亀  
濡れ髪を拭かず佇む柳腰の影は堀辺で誰を待つのか  
杜若咲く石橋の川縁に白蛇権現ひそやかにあり  
傘さして橋を渡れば逆さまの傘が浮かんで進む堀川  
夏の雨松葉に滴 バスを降り雪駄の底を濡らして歩く  
水無月の水の都に縁霽お堀めぐりの舟に袖ふる

宮嶋じつく @miyazima\_jizq

## 傘になれない

「雨やどりさせてよごめん、飲むから」と静かな声が鼓膜に届く  
続く雨髪とくちびる彩って止まり木越しの僕を揺さぶる  
黄金に輝くみずをきみと飲み愚かな夢をひとり抱える  
約束はしないできないひと時の雨露しのぐ傘になれたら  
遠ざかる後ろ姿をかき消した雷雨にいつそゆだねてみるか  
これからも傘になれない痛みだけ抱えて生きてたぶん忘れて

麦野結香 @yuka\_nikut

## そのための水無月

どれほどの感情がおれにあるだろう琵琶湖に水を見に到るとき  
水底に沈めたいのは顔なのか感情なのか まぶしく光る  
空間に引つ掻き傷を成すように降る そのための水無月だった  
水面に残す波紋に見てしまう雨の力を 力は力  
生きていくことの不思議に雨があり身を寄せ合ってゆくのでしょうか  
泣くことが救いであればたまらなく川上へただ歩いていくさ

虫武一俊 @mushitake

## 駅前川がある

駅前川が流れる町に住み日に二度川を渡つて暮らす  
何度めの裏切りだろう蚊柱をけちらしながら駅へと向かう  
六月の川で始まるあやとりを子らは飽かずに繰り返している  
町を出る覚悟が橋の上でありギターの下手な少年がいる  
許せないものなんてない何だつて捨てれば海にたどりつくはず  
水かさが増えて流れが速くなり雨上がりいたたまれなくなる

泳二 @ejinimada

## 打ち水

桜舞うその一枚が水面撫でやがて一面浮く花筏  
雨音が呼んでいるねと傘差さず水たまり入る赤き長靴  
過ぐるたび跨ぐ運河の水揺らす首都高速のトラックの列  
真夏日に浴衣着て打ち水をする子のはしぎ声わずか涼やか  
たくさん浴衣の群れとすれ違う水族館のような交差点  
夜をこめて積読本を崩したい よに東京の水無月三十日

太田青磁 @seijota

## 滴り

県道のスポーツカーにすこしずつすこしずつ降る金色の雨  
制服の襟を汚した雨粒はコンクリートの染みになりゆく  
滴りが首筋を焼く 六月は傘をなくした俺たちのため  
交わしても交わしても雨いつかまたあじさい通りで逢う約束を  
脱皮する雲の形を見ていたら君の耳から波音がする  
一人では諦めきれぬ六月を雨宿りさえ言い訳にして

大木はち @nachidx

## うずまき管に水音

出航は晴れやかであれ home を落した便器すこし光って  
ひと通り蛇回を閉めてみたけれどうずまき管に水音が また  
どの店も世界一周船旅のポスターが呼ぶ揺れるよろめく  
とき汁を庭木に撒いていたひとへ供えるために炊く無洗米  
ジーンズに泥跳ねの跡 夜あそびを誰も叱つてくれない街で  
六月をそれでも越えて行かなくちゃビニール傘を買う列につく

大葉れい @lay\_over

## 酸性雨つらら

酸性雨つららの垂れる公園のベンチの屋根の崩れ文様  
嬉々として電話を寄越すあなたには見えないだろう黒雲なども  
あなたには仕事があつてわたしには仕事がないだろう土砂降りになる  
雨ならば屋根下へゆけどみんな言う コンクリートの土管に入る  
雨にすらコンクリートは溶かされて口の堅さを誰が信じる  
這っているみみずを見つめて手を出して手を引つ込めてこれはわたしだ

萩森美帆 @OgimoriMiho

## 海と涙の化石

ひとしづく君の涙が川に落ち海まで届く心のかげら  
足元のコンクリートに潜むのは人類が流した涙の化石  
もし君の涙が海へ届いたら人魚の泡が寄り添うだろう  
川底に沈む銀貨を手にくい迷い子へ渡す「もう泣かないで」  
蒼蒼に沈む夕陽に祈ります私の涙を探してほしい  
ぼとぼとり真珠が落ちた音がした君を泣かせてほんとにごめん

かざえ @kazaes

## 私信、水の中からあなたをみています

ひと生りの柘榴が枝を揺らすときたがい落ちてゆくまでが風  
手の皮を殺ぎ落としても燃えているさそり座をみていただけだった  
緑蔭で(あなたも愁うひとだった)(けれどほほえむ)メロペを埋める  
さよならだ鏡の中に風よ あなたは悪くないのでしょうか  
きみ おまえ あなた— どれなら愛せたのだろうか入りゆく水は冷たい  
波ならば至るところに立っているあなたのの中にわたしのの中に

風橋 平 @kazahashi\_0

## スコールの循環

スコールが地を打つような優しさが痛い小さな傘はふるえる  
泥水を撥ね散らかしてオオカミが来るぞわたしをめぐけてきたぞ  
愚痴なんて流行らないからバスタブやシャワーが聞く羽目になるごめん  
いつも出る虹だと思ふことにした逢うたび彩度の違う切なき  
「泣く」なんて選択肢にはなかったな有精卵でつくる煮卵  
花活けの濁った水を捨てていく生きゆくことは腐りゆくこと

暮紗 @blueegret

## さかなの王冠

だれも見えないミルク降るなか踊るふたり、足もとに咲く王冠  
触れちゃだめヒヤシンスプルーの少年は毒がある鱗がはえる  
足なんて捨ててしまえよ不自由だ赤いさかなが洞窟から呼ぶ  
魚腹に葬らる時計は深海時間でわたしをおいてゆく  
夜味の紅茶、星味のマカロン、さかなと茶会、パイパイ地上  
水滴の衣装たなびきのぼりゆく陸に帰らぬ海の花嫁

みずほ @mizuhos60

## 巡る

荒れ狂う波と波とが打ち合つて白い飛沫は天に召される  
定めなく天にたゆたう ふんわりと柔らかそうな霧の塊  
しとしとと涙を流す晴れた空 嫌な記憶も洗い流して  
濾過されて記憶なくした水玉は身を寄せあつて流されていく  
のど通るH2O 何年も旅を続けて身体うるおす  
この星の生きとし生けるもの総て着く包んで水は波打つ

misOno @misOno

## ずっと雨だった

雨という自然の中に不自然があるから分かる君のつく嘘  
雨が降り傘を開くプログラムさういう自分の正しさがいや  
心臓を温めている音がする火にかけているやかんの中から  
お祈りのメールが一気に羽ばたいてこっちへ来るから生協は雨  
壊れたらきらきらしてる魂とビニール傘は同じだろうか  
君はもう雨の匂いを忘れたねやたらとコピーをとるのがはやい

南珊夏 @blue\_rebels

## scene 海

目の端で探してしまう海のように碧く大きく煌めくきみは  
その指に海の生き物棲んでいて静かに強く伝わる音色  
灼熱に真白な素肌焦がされて消えては不意に湧いてくる水  
貝殻のように儂い夢を見るはつなつの夜飲みこむすす  
幾度目か触れ合うほどにわたしまで同化していくその甘い雨  
愛という独りよがりを抱えては海を孕んでまた産み落とす

忞未(みみ) @mimi\_4567

## 境界面

バイバイの前に必ず目薬を涙みたいにあふれるように  
夏用の青い薄手のジャケットも生きてゆくには雨で重たい  
濡れた手で手を握っても手のひらの汗がわずかに薄まるだけで  
でも違う あなたの声をポタポタと遮りながらポチャンポチャンと  
花びらをちぎり雌しべを舌先で触れると甘く少年のころ  
僕よりも少し高めの体温の意味を知ろうとお風呂で溺れ

古井久茂 @tulidom

## 海はうなづく

五月雨が海になるのを見届けてわたしはいつかあなたを孕む  
びしょ濡れのわたしを拾い上げている二本の腕の確かさだけを  
らんぼうに温められて目を閉じる羽を休めるカモメのように  
まだもつとそうもう少しこのままで綻びあっていたい夢なら  
折りかえすページの分だけ膨らんでしまった本をまたひらく朝  
じゅうぶんに乾いた羽を広げればいつでも飛べる 海はうなづく

星乃咲月 @kirarauta

## 水いろいろ

北海道京極町の水道は全部湧き水 トイレもそうだ  
涙からうまれるものは何がある 砂と混じると肌荒れになる  
深夜にはふと雨になる北海道太平洋側朝には霧に  
わたくしの死体焼ければどれだけの出るのでしょね水蒸気など  
いのちとは水でできてるだけでも休眠中のクマムシ除く  
おいしいよ登別市の水道は室蘭に水を売っているほど

松木 秀 @reacset1972

## 北海道 旅のしおり

傾けば針葉樹林の拓かれて大滑走路は霧によこたう  
きみの目を異人にかえるソーダ水 港を見下ろす夜景の中に  
シベリアの雨は冷だし少年の丘のポプラは銀に耀う  
遅き春りんごの花咲く余市川に麦のしずくは深く眠れり  
木の影の束をさして長まりて富良野の丘は「狐の嫁入り」  
三日月はメノコのために語るやも摩周湖に読む「絵のない絵本」

まみ @fyoufeilonehy

## リグレットの降る街

本当は雨は点にすぎなくて時を裂くほど強くもなれず  
水出しの珈琲を飲む こめかみのあたりの痛み降りやんだ部屋  
ぼんやりと耳を澄ませば鬱そうと茂るころの濡れているひと  
言葉じゃないあなたのことは途切れずに肌の時間に溜まりが映る  
傘のさきで描いた魔方陣を踏む ひとりで帰る灰色の街  
青白い肌でごめんね マンションの屋上にだけ雨が降ってる

風野 瑞人 @knizuto

## 白痴

真っ青な夕闇だけを閉じこめてあなた以外は立入禁止  
そう九月最後の週に会いました犯罪者ってどこにでもいる  
だれの子も妊娠できる人でした洗剤荒れの指をつかめば  
ほんとうに嫌いなことがわからずにはいけないことばかりする  
はなばなのなまえばかりをいいあてるきみをこころで白痴とおもっ  
それでいて雨音のなか抱く人が聖書をめくる音に似ている

ガツキ @th\_1979

## スコラルと呼ぶ

傘なんか捨ててしまったスコラルのような雨しか知らないわたし  
雨降りの予感がしたら傘をさすそんなことさえ知らない恋だ  
雨よいつその体を撃ち抜いてうまく器になれないよ、もう  
降り止まぬ雨を受け止めきれず湖になってしまったひと  
何マイル離れていてもきみだけが同じ雨音持つひとらし  
後もどりでできないほどの激しさを含んでそれをスコラルと呼ぶ

河島レイ @ray\_kwsm

## イマコ

そういえば何びょうもふつてられるかな「まだ入ってるの、もうすぐこは」  
「Take your marks. プザー水しぎき水面越し天井の明かりゆらめくきれいな  
ひたひたの海にくるまる惑星の微かな一点」ここに居るのか  
「どうしたら」滴る想いで海になる 諦められずに10秒潜る  
「どうすれば」あなたの方でなかわたしのなかにあなたおぼれてふたり  
育まれなかに個室の海ひとつ「40週は何秒」「検索」

川庭多機構 @nyakatsuki

## 虹をあやつる

開園を待つ柵越しに水まきの飼育係は虹をあやつる  
水のみ場で遊ぶ子どもを呼ぶ声をくぐって急ぐふれあい広場  
飼いたいねうさぎを触って手を洗う僕らにまつすぐ届くこもれび  
美味という発音重ねる唇に痺れて熱い君とジンジャー  
夕暮れのボート乗り場の南京錠 背を向けたまま口を閉ざして  
かきむしる皮膚は薄くてじわじわと魔物のように赤くしみだす

気球 @k9zary

## てるてるばうずに立てる中指

三人してビニール傘を買うような関係でした 突然の雨  
深海で生きると決めた 雨傘は役に立たない邪魔になるだけ  
「雨に濡れ風に吹かれて道端の軍手のかたちはアロハのかたち  
二人分びしょ濡れているペランダのてるてるばうずに立てる中指  
前を向く人は気付かず越えて行く水たまりには虹が映った  
深海にとどまる水となれ涙 虹を映した記憶とともに

むつね @00kitsune

## エレメント

ひそひそと名前呼び合う楽園を追われた陸の魚座と蟹座  
浴槽の波に紛れることさえも許さぬ恋にふたり溺れる  
庭に水まけば次々花笑うそうねあなたもきつと今ごろ  
エゴノキに水やるあなたのそばにいて毒を育む約束したい  
水みたいだねって毒のグラス越し夢の中でも泣かないあなた  
冬ならば誰にも見られず手をつなげたのにさよなら海に降る雨

木原ねこ @kiharanecko

## 雨を見たかい

遅すぎる出逢いだったか水無月の空を見上げてつぶやいてみる  
偏頭痛は雨を兆して鋭角の視界に裂けるきみを見ている  
六月の雨はやさしくうつむいたあなたを濡らす ふれてもよいか  
手を引いて雨の街へと駆け出せばジョン・フォガティが歌い始める  
届かない言葉を胸におさめれば止むことのない六月の雨  
水無月に生まれたきみはナパームの雨を降らせる わたしの胸に

木村 美映 @Beikimura

## 水のような恋

刃では切れない水のような恋すべて受けきれいつかは消える  
とうめいなみずでからだを満たしても消えてくれない背徳心は  
新鮮な水よりあまく軽やかなお酒が似合うふたりきりなら  
部屋中を満たす水滴じゃれあったままでシートにおぼれるふたり  
だいすきな名前が滲む水性のインクは恋に適さないから  
ちりちりと焦げてしまった身体から君がゆっくり蒸発をする

東ごころ @cocoronohana

## コップ一杯

はじめは学食開のテーブルの上に置かれたコップ一杯  
気恥ずかしそうに挨拶する君が逆さに写る飲みかけの水  
ふと二人取り残された気まずさに同時にぐくり飲んだ一口  
咳ばらいしつつ戻せば収まりを違えて転ぶ二つのコップ  
「すいません」重なる声とハンカチと濡れた指先 ころろひとひら  
今日もまた学食開のテーブルの上に置かれたコップが二杯

コロマル @hitomaru712

## よいざめの

つゆおよぐ魚族のわれながれつく場末の飲み屋からむかいそう  
いっぱいビールのために今日のひとひがあつたのだからばいゆうやけ  
かきまぜるしょう油からしと納豆とたきたてごはん水戸のばんざん  
紺碧の江戸の切り子と語る酒 肴は冷やのやつこ二丁  
つづつとつづつやくわれのよいこちつお貝ほじる黒文字のさき  
よいざめのコップにくまれ飲む水はまだ夜もあけぬホテルしのめ

笛地静恵 @mundburg

## 大阪の水

第二寝屋川のほとりに住んでます海には辿り着けない町で  
工場のおいかすかに混じる長瀬川沿いには菜の花が咲く  
目の前の海も知らずに水槽の掃除ただ待つシンペエザメは  
橋という橋を落として中之島取り残されてみたいねきみと  
潮の音きこえるような名の町で和歌山県とを行ったり来たり  
大阪の水は意外と合うようばちゃんと跳ねる生駒のふもと

福山桃歌 @peachsong\_521

見上げる、見上げる。

泣いているきみの見上げる星空よ手を伸ばしてもしんと静まる  
なみだなど見せたことないきみでした心の海の海は溢れて  
苦しみを何に例えて話そうか紫陽花はまだ水を欲しがる  
並んでもおなじものなど見えないと知っていますか雨、降りやまず  
頬すべる水の正体何だろうとりこぼしてきた愛の数々  
雨上がり守れなくても筆圧の強さのなかにきみの真実

野々川糸子 @ITOKO\_nonokawa

## 水瓶に月

十一月末の突如の告知には秋雨も雪もなく泣くしかなく  
家族用着信音が鳴り響くラブホのベッドでまず水を飲む  
モルヒネで風ぎゆく湖面にうつすのか二度だけ青い空を見たがる  
もうつめたい肌を姉妹で清めゆくかつて二人を育んだうみ  
新しい名前に月を持つ人よせめて父の涙を照らして  
水瓶にうみおどされた宿命を果たせぬままにまた夏が来る

羽島かよ子 @kayoko\_31

## 伊勢恋し

五十鈴川は小石を投げて遊んだねミクちゃんマミちゃんトワちゃん、あだし  
初恋のカズマくんには会えませぬ水商売に染まったあだし  
水曜日こくごのじかん泣いちゃった「スーホの白い馬」を朗読  
春うらら宮川沿いの桜たちカズマに会えず散っていくばかり  
トワちゃんが御神酒を配るバイトした伊勢内宮はわれのふるさと  
水による洗礼受けしクリスチャン遠きふるさと伊勢神宮よ

きよん姫 @gyonhime2

## 古都の川面に

繰り返す堰堤下る水たちの生みだす音は日がな一日  
鴨川に等間隔の恋人らひたすら流れる時のほとり  
街の灯が川面に揺れて夜は更けゆらりゆらりと旅人になる  
戯れに流れに指を浸す時案外遠いきみかもしれぬ  
わずかなる光を連れて蛍舞う水は甘いと誘うのは誰  
祈るかのように流れぬ石ひとつ彼岸へ渡る飛び石だろうか

希和子 @mitononon

すいむすいむほーむしっく

静寂は寂しがりやのためにある遙か静かに広がるブルー  
貝殻に耳の形が似てること、飛び込む、ざぶん、ふと思いで出す  
見上げればひかりのみなも輪郭がとけて誰もひかりのみなも  
はくあきがたゆたいながらほぼえんでいつかどこかのおかえりなき  
浮かんでくからだを陸へ押し戻す生きてるかぎり寂しいからだ  
ひとつだけたぶん真実だと思おう水のぜんぶが故郷と思おう

原 沙良葉 @harasataha

## おしめり

戻りたい湖がありどこまでもひとり自由に泳げた体  
毎月の流れる雨よ用もなくわたしはわたし女のままで  
あたたかなものがわたしを貫いてあああ海より遠い記憶  
あふれ出る涙こんなにもこんなにも波をたたえているのでしょね  
ふつふつとシャンパンの泡弾けては疲れて眠る薄い朝焼け  
霧雨がふたりの影を隠している大人の顔で向かいのホーム

春森糸愛 @junju\_usako

## アイリス咲く

美しい夜もあるでしょう蛇口からながれる水をそのままに飲む  
この雨はあらしの予兆コンピニのビニールぶくる陸とおく離る  
緑金のかぼそき脚をひたしつアイリス咲く愛されひらく  
骨組みをひろげて空へゆくときの鳥のまなこに心ひかれる  
はるかなる湖さす針の方角に六月の虹ほのかにたたり  
あやめずに晨あつることも指先にミルクの跳ねのあることも だろ？

草野浩一 @kusakagerou

## 雨傘

一滴がひらたい石の床に落ちそれが聞こえるくらいに孤独  
公園の池の中にも苦しみ映って雨粒など受け止める  
水上に鳥は集まり話し合うこともないまま真昼をうごく  
エサをやる男がいれば鳥たちは群がつてゆき奪いつつ食う  
雨傘を杖のつもりで使おうと試みやめた数秒の間に  
離れると水の流れる便器から聴いた気がする舌打ちの音

工藤吉生 @mk7911

## 君に会うための儀式

ひとりでは広すぎるから君の名をつけたアヒルぶかぶか浮かべて  
あたたかくゆるんでしまおうとまらないしづくしづくあふれるバスタブ  
ふわふわの泡につつまれこの恋が消えぬようにと願う人魚  
いつもとは違う香りを身に纏う君は特別というしるしに  
なにもかも脱ぎ捨て洗い流してこれは君に会うための儀式  
繋いだ手重ねる唇撫でた髪ダメね、ワタシもう潤んでる。

栗栖莉乃 @lyrical\_note

## 濡れ鼠

波の引く音をたてては遠ざかる尾灯があかく滲む霧雨  
張りついた薄手のシャツを引き剥がす割れたままの爪、ぬるい雫  
一錠で足りなきや二錠飲めばいい、明日もいちにち雨だ、おやすみ  
肉体は水に溶けない、よって蒸発もできない、やってられねえ  
雨の降る夢をみていたラジオからもれるノイズの粒子をあびて  
倅せな今をいつでも生きている 光る水面の下は見えない

鶏尾ねじ @niTKRV

## ソナー

こちら海、緑の受話器は重たいね昭和六十年の十円  
涙って音がないんだ ちゃぶ台でぬるまつていく午後のキュービー  
湖のふちをたたいてかなしみをかなしみとして沈殿させる  
とめられぬたらてれとろたらてれとろしめらせていけこもあまみず  
海底にふれる花びら透きとおりみずから出ていく術をなくした  
しやらきしやら珊瑚揺らして追いかけるソナーあたしの群れを見つけて

新名リオ @uruffayn

## 雨がどしゃぶり

観覧車揺れるぼんぼりデジタルの文字も濡れてる薄暗がりに  
噛み砕く飴玉鼻をつまんでほら、グレープ味の雨がどしゃぶり  
不安げな瞳がたどる海辺にて溶けだすほどに歌いあいたい  
あの傘は母親の傘あの傘は妹の傘 ゆびきりはしな  
物憂げに雨は道路と混ざり合い青く小さく花はうなづく  
レモンレモンすらいすみらいなら少し悔し涙が必要なのです

ニキタ・フユ @niki10fy0406

## 梅雨の夜・記憶の深さ

汚水の大洪水をまがき泳ぐ日々はあなたのメールに一筋のロープを張られる  
ミストの椅子で傘のしづくばかり気にして真剣に聞いてないのその横顔にしと抱かれる  
神田川が激流よ大丈夫と聞いたたら平気さだってそれはおれの心だと言いたいくせに  
激しい雨音少し汗はんで抱き合っている 現実なんかちつとも欲しくなかった  
ここに電話ボックスがあつたあの雨の夜メモを残して立ち去ったままの  
遠ざかる声を抱いて巡る井の頭公園の闇噴水の音がすぐそこに聞こえる

河野遙 @kono\_yo\_tanka

## 天気雨の日

雨になる前の粒子をゆびさきに絡めて君はピアノにふれる  
みふあそらと弾けばたちまち夏はつ夏の光溢れて水際に虹  
あたらしいタオルのような距離感でいもうとに会う天気雨の日  
つき会えるときでいいから。お互いの翅を濡らさぬようひらく傘  
流れつく波打ち際にさらさらの思いさらさらのまま引いてゆく  
飽和とは満たされながらどこまでも欲することと知る君といて

香村かな @komukana

## ばくらのほつなつ

洗濯機フライドチキンと言いながら君が階段から落ちてくる  
リンスインシャンプー 相容れぬほくらがはじけるように笑いあう朝  
食洗機狂信者s 手洗いの原理主義者が囲む食卓  
遠い遠い渚の波を聴いている スイカを茹でてしまった風呂場  
「たぶんいまルンバは三億年前の海の景色を思い出してる」  
肅々と過ごしてこよう葉脈の中には雨の日も風の日も

西村湯香 @yunomihot

## 水揺れる

2011年3月  
夕闇に吞まれじゅぶじゅぶ水面をうねらす黒き江戸川を越ゆ  
2011年4月  
首ほそき妊婦に抱かれ一族一本限りの水ひかりおり  
2011年6月  
はつなつの身のうちのみず濁りゆく「疎開」が死語にあらざる日々  
2012年2月  
くりかえし子にかけやる湯ナイフヒバクガイブヒバク皮膚うらがえしたし  
2012年3月  
賞味期限2022年の真水みじかき地震にみじかく揺れる  
わずれかけていたんだろうと横揺れが来ては崩せりわれの輪郭

沼尻つた子 @tsutanuma

## 雨と追憶

鼻先をあなたの匂いが掠めたら雨の知らせと脳が訳して  
頼んではいない あなたの好きだった雨の歌を流すカーラジオ  
雨粒がフロントガラスを打ち鳴らす あなたの街ごと世界よ歪め  
もう二度どあなたはわたしを叱らない 雨模様なか身を投げ出しても  
雨により透かされてゆくブラウスの中をあなたは知らないままで  
夕オルから滴り落ちる後悔を見なかったことにしてゆく浴室

七波 @magicipocket

## シーサイド・ユース

ひとはみな海を抱えてその青さはかりを批評される春あり  
赤い瞳にたゆたうものに名をつけてこれもひとつの海だと気づく  
潮くさい若さを湯船に浮かべたら本物だけを探す航海  
汽水湖の不完全さにうなずけば身体の中に棲まう生命  
夕風の海でふたりではしゃいでる溺れるくらい苦しい季節  
定刻に満ちゆく潮をゆるせたら脆い契りも交わせるだろう

七海奏一郎 @utaatari

## 水無月に

雨もよひの二日なれども君がもと傘さへ捨てて走れよ走れ  
水玉のチユニック選ぶ仕事とは違ふ自分を見せてみたくて  
水無月の双子座A型情なしと良く言はれます属性は風  
水色の軽をあやつる仕事よりあの人よりも長き相棒  
帰宅してすぐに課題がふたつあり植木には水われには麦酒  
仕事終へ身体に流しこむ毒は淡くホップの香りするなり

並木真秀 @takeake1981061

## 海物語

水彩画サファイアブルーを褒められてまた模様の海が生まれる  
潮騒を聞いた気がしたさもんから呼び起こされる海の渴望  
独り舞う鷹は翠の海を見て鮫と競うた記憶に溺る  
今日の午後クラス抜け出した海は罪の深さと同じ色合い  
人間の業の深さよアステカの金貨を海は深く抱きて  
空色と青が交わるさざなみのきみとの関係平和そのもの

成瀬山水 @sousaku\_yatsu

## わたしは水で出来ている

音のない水底落ちたことがある君をみつけたときの一瞬  
舟漕いで川渡ったらよかったね君は飛び込みずぶ濡れで来て  
青い薔薇インク飲んだら君だって私に染まる証拠よねこれ  
葉脈つて水が通っているらしい規則正しい緑のために  
君無くし一番思ったことだけわたしは水で出来てるのでしょ  
聖水はペットボトルのお水だと清めるように飲む喉の鳴る

漕戸セリ @muraamy3939

## ミナツキライダー

水無月を迎え撃とうと思えます声を限りに響け雷鳴  
狼になってみようと勇んでも傘を忘れた僕は丸腰  
今日はもつ大丈夫だと嘘をつき水たまり踏み肩を並べる  
雨音が追いかけてくる閉じ込める濡れたシャツから落ちる水無月  
今もまだ好きだと言ってくれますか湿りずるりと滑る本音が  
君を追い蹴り出し駆けるアスファルト入道雲に溶かせ炭酸

小早川 @dodotsu

## 雨より海は生まれき

褐色のかまきりひとりベランダに眼は全天の雨を映して  
野分風ビニール傘に迎ふればプラネタリアム全部流星  
橄欖油ためらひがちに鍋へ落ちキリエ、雨より海は生まれき  
うみが呼ぶ 蹴れば自分が痛いつて気づいた子から道具をつくる  
しほみづできおくをあらへ真珠湾白銀大河象牙海岸  
雨粒よりいのち短きいきものは雨粒に名をつけるのだらう

西藤正 @jiji\_jiji

## 人魚の恋

泣き顔が映る水面に指入れる波紋がずっと拡がるだけだ  
まだ彼の携帯不通眺めている川の水面が泡立っている  
六月の雨に身体を押しさえられ濡れた背中にすがりもせずに  
ひとすじの汗がこぼれていく喉に私が君に雨乞いをした  
気付かずはその場しのぎの缶コーヒー甘すぎる嘘 飲み干していた  
頭痛薬飲んで深海沈みこむそうして人魚は朝を待っている

桜葉明美 @yricabibi

## はじける

愛犬が水を飲んでる音だけを保存しておくためのフォルダー  
こう見えて楽しいのです雨粒で濃くなってゆくスカートの色  
笑わない歯医者に見せるひどい顔ピンクの水を吐きだしている  
なんとなく願いたいことつぶやきながら取れたてのミニトマトを洗う  
幼子が「海だ」と言った車窓には穏やかな午後二時の利根川  
柔らかいペットボトルの水を飲む私はずっとこのままじゃない

佐倉麻里子

@lux\_candy

## 午後の水脈

水分子のひきあうつよさ 呟けば言葉はつぎの言葉をつれて  
私の根本的な欠落のたとえば海を求めないこと  
光るのは塩素それとも泳ぐひとのみている夢の反射でしょうか  
さまざされてあたためられて水銀は誰かの温度のためにあること  
左腕にふれられるたび細く細く水脈のうまれる午後でした  
黙って、と微風のように言うひとのグラスに残るわずかな水

佐々木暵

@suehecha17

## 火とひと

さみだれのまくらきゆうべいつわりの告白をせしその夜のこと  
花びらの乾きたるそのみずうみに捧げるためにひらくくちびる  
断罪のきよきレタスに歯をたてる さねりざねり 唄ってよいか  
ぼうぼうと灰になりゆく敷き櫛のまぐらの陰のひかり 恋せよ  
撫でくるるましろき雲にみたされてひかりと影のうるむペン先  
虎が雨 知らぬふりなら続けますどうかどうかこのひとをぬらして

笹谷香菜

@sstin

## 木火

卯花月独逸の白アスバラガスは独逸の水で茹でてこそかをれ  
余生何に渴くか知らねさみだれにみたされぬ我がころあやしき  
夏虫のおもひ燃えたつ走井のおまへに奔るままに逢坂  
呼び戻す波のおまへにそぼちつつ叫びをまなうらにたみけり  
茶毘を待つ我が身に満つる水ありて我が身とは何か悟りかねつも  
冷たき業火揺るる言葉のふるふると舌先に沁みいる水のジュレ

佐藤

元紀

## 主成分はボルヴィック

かなしみの海が次第に満ちてゆきあなたの声も聞こえなくなる  
罪悪感ばかり募って日は暮れる海からぬるい潮風が吹く  
実らないかもしれないって気付いてた溢れるほどに水を注いで  
それぞれの内側にあるみずうみが時々揺らいで僕は零れる  
どうせ泣く私のためにボルヴィック少しは綺麗な涙に変われ  
100均のビニール傘もオレンジの水玉模様が変わる夕立

とま

@toki\_a

## 白秋へ

いつせいにあふれ。それからはもうずっと岸をさがしている。その岸。  
順番につたいはじめるねむり水待ち水うまれくるは水 朝。  
冷やされて水になるまで。醜さや原初のおいをかんがえるととき  
(待っていて) 呟いてみる午過ぎに合歓のはな首をもたげモンスーン  
うなだれ。とまる。ひきあう。既視感の朝を思い出すまでの水  
皺の立つ紙がへこのさされている。朝。おまえがきつと泣いた白秋

とみいえひろこ

@hirokodori

## 液

「生理的食塩水の比率持て男を喰らふ女あらはる」  
十五回くぬぎの幹に釘を打つ泣いてる様を見たと言われ  
カルピスはCOW-PISSに似て飲むことを強要される給食時間  
まどろみに冷めて甘さを増したのか顎に滴る唾液を吸る  
週間予報勝率五割 愛液の意味を男は理解できない。  
血溜まりがすこし乾けば焼きたての卵タルトの触り心地よ

中村成志

@nakam8

## 青ばかりで嫌になる

この青が全部サイダーゼリーならぶるんぶるんと揺れるさざなみ  
夕立の無い町だからいつだってハデな下着をつけて育った  
それがまずくちびるに降り真夜中の豪雨に流されてく靴下  
パンストを雨で濡らしたOLにだけは死んでもなりたくはない  
浴槽はひとりにひとつ思い出を溶かした中に浸かるといふこと  
洗濯機の前に立って泣いているわたしの涙だけが真実

なこあーる

@nakoar24

## わたしの指は愛されていない

音のない雨の降る昼あめんぼの浮かぶ小さな池のしずもり  
直線と丸にてうごくあめんぼの影川底の石を撫でゆく  
澄んでいる小さな池のあめんぼを掬おうとしてさしいれる指  
あめんぼも魚も指をすり抜ける わたしの指は愛されていない  
水だけが指に残って光つてもやがてそれすら乾いてしまふ  
しびしびと冷たい雨の降る朝は小鳥の声の聞こえない朝

月下

桜

@tukshitau

## 溶ける

水から水に変わっていくようなキスをしましように口を開いて  
Silent Night, Silent Night, Silent Night 暖炉に雪を投げ込む二人  
雷雲の中で出会ったカップルがコソれて落としたような雷  
雨水を湛えて万華鏡になる全部のアスファルトへの眼差し  
君の目を水晶に取り替えようね遙か彼方の冬を見ようね  
混ざり合った僕らを製氷器に入れて固めてください溶かしてください

ていん

@tein\_tairo

## 旅の話

どこか君の行きたいところ 水戸という名前の街に湖のある  
眠れないほど汗をかくこの部屋で君の体の水を見ている  
ほら君の旅の話が好きなんだ ひとりっきりで海を見に行く  
電灯が生み出す光 人間の体は水に充たされている  
浴室に行くなら裸で 思うほど蛇口の水は熱くならない  
僕のなかに河が流れる ごわごわのシーツに包まれて眠ろうよ

土井礼一郎

@reicho\_murr

## まいなすいおん

ちかちかと噴水池に寄りながら(まいなすいおん)君ガミエナイ  
百億の中の一人を想いつ一粒ずつの雨垂れを聴く  
役立たずの番犬に似て雨の日とグレイがともにあう青年  
ぜんぶ脱いでさんぶとお湯に沈むとき「私の間違いだった」とわかる  
満たされた器のように待っていたあなたに水をかたむけるまで  
雨の日は雨の匂いの話などぼつりぼつりとする人でした

雷樫由美子

@yumicomachi

## 夏の湖水

ひるがおよ 海無き街の夕暮れを閉じてゆくのはさみしいですか  
髪に胸に霧雨を受けわたしたち千年前もこの場所にいた  
貝がらを拾えば砂にきみの影、象のかたちに見えたこととか  
水紋は、心だからね。六月のみずの昏みに投じる小石  
叶うなら一生続く約束を 夜を越えゆく舟を、ひかりを  
笑うとき背を反らすくせ今きみは夏の湖水の入り口になる

さとうはな

@s\_hana111

## 消して、名前を。

フォークを置いた音と沈黙 べこらん 傘をさすひと 雨だ  
抒情とは霧のかあなたに見え隠れしている汀 水仙の白  
夜の雨という夢をみた土が居てそこだけ少し湿り気がある  
雨のなかそっと歩めば微笑ましい敷石道のやわらかな拒絶  
受話器おいてゆび放すまで水圧の緩みて月の下に浮くまで  
一杯の水がグラスの形して在るだけでいい。消して、名前を。

## 真夜ふかくからだを浸す……

まなかひに拡がりゆけるみづうみの裡にさがさむ我のたまゆら  
ひさかたの雨のそぼふる夜の更けてあをき花臂のなつきに揺るる  
ともすれば散らばる夜の花茎ゆしたたる水を受くるてのひら  
しろたへの砂のことは 液体はつかれた皮膚をやさしくおかさ  
雨音のはつかに聞こゆにはたづみ真夜の川面にわたしのこゑを  
答へのみあふるるばかり電脳のうみに分け入りひろふ花貝

紫苑

@purple\_aster

## marine life

水際をわたしと歩いているときのあなたを誰かに見てもらいたい  
海の水つめたいて言つたのにはほほ笑んだまま手を放される  
よく晴れた砂浜にいてシーグラスみたいに温められてさみしい  
もう少しだけそばにいる地平線水平線をゆびさしあつて  
いとしくてこわいね海の生き物は 熱のない肌寄せて眠るの  
産卵のためウミガメの訪れる小さな町をともに愛そう

塩谷風月

@sfugetsu

嶋田さくら

@sakra00304

## かちめ

たつ鳥が濁したあとに澄みわたる水になるまですこしお待ちよ  
さらさらとこぼれて落ちる砂粒をわたしいつまで数えるかしら  
みづみ水はしみつつ春麗のあかい煉瓦の河を流れる  
こんな日はやすみにしたい雨降りの朝は元氣なあじさいの青  
おりかえす季節はいまと緋花咲き雨にまけない凌霄花（のうじんかづ）  
をなごりかもめが似合う海に来てなぎの港で船をみている

春麗

@diplurula

## A day

繰り返すことばかりだとレジ袋ふらさげ歩く水車公園  
忘れてた野性のようなだ剥き出したグレイプフルーツ齧る口元  
七割のエイツオーもしここで手を取ったなら繋がっている  
港からなにも言えずに帰る頃噴き出してゆく水門の水  
今はもうわたしの中だあの夏も蛇口をひねって溢れた水も  
動かしただけはなにかと二時半に自分に問うて、とくん、きこえる

スコラブ

@scope\_scape

## 別れ雨あなたは

盆に乗るグラスゆっくりその底へ 誰なの、私を水にしたのは  
待つて、まだ私は真水これからもあなたの胸を濡らしていいの  
水曜日二人が二人であるための永遠曜日、さよなら曜日  
いいえ今わらったのです泣きながら抱きつくとも思いましたか  
追いかけるあなたに私が降りスタートダッシュでああ混じる砂  
夏惑う ただ生きることただ雨が降り出すことに淡い意味あれ

たえなかず

@suzusuzu2009

## まなつ

砂浜に今も崩れぬ城がある まぶたの裏で水面は熱い  
水道水グラスが満ちるほど注ぎ一気に飲み干す青山の夏  
蝶々のように水面を飛んでいく球技はからきしできないあなた  
海沿いの道突っ走る選挙カー プールの後の化学は眠い  
秘密など隠していない顔をして少女を消したあの夏の海  
一面の空を映した海原へ飛べないペンギンたちは飛び立つ

たかはしりおこ

@nashkrkr

## そらいろ

くちびるを気付かぬうちに囁んでいる奪われたものは帰ってこない  
スズランのようなほほえみだけ遺し消えてしまった春色のそら  
聴いたことないはずなのに声がする内耳の底でそらが鳴っている  
風ひとつないのに溢れてしまうから失くしたそらの波長を刻む  
飛行機は喫水線を引き終えた涙色したそらいろのそら  
くちびるに赤が滲む(まだ泣かない)雲の上だけ今日も晴れている

立川葵

@a\_o\_l\_hollyhock

## 水

水無月というのに今日も雨模様 矛盾が青い、青い6月  
炭酸水 違うこんなに爽やかなこれは青春なんて呼べない  
溢れそうせめて貴方が去ってから蛇回をきつくきつくひねった  
別れなどちっぽけなことゆっくりと回りのつづける水の惑星  
H2O 飲んでいるって思えたら世界はもっと優しくうつる  
鬱陶しい湿度もきつと傍目にはぎらきらひかるような憂いね

揺

@Ta\_yu\_ta\_529

## 雨ばかりふる

会いたさの海に浸されあのひとの遠い五月が濡らすくるぶし  
ばかりみたいばかり降り降るこのあいだ貯水タンクは空にしたのに  
かなしみの雨ばかり降るこのあいだ貯水タンクは空にしたのに  
飲み込んだことばの雫ひたひたと下書き欄に満ち満ちて海  
近づいてくる雨があり予報ではあす朝あたりさよならはふる  
花冷えの雨に負けないつめたさでこのまま嫌いになってください

千原こはぎ

@kohagi\_tw

## 鍵

正直に生きてきました白線やあなたの影を踏まないように  
なぜ鍵をくれたのですか鍵穴は他の誰かか塞がれているのに  
一日だけあなたを独り占めしたく胸ポケットの鍵の息継ぎ  
さつくりとリングに束ねられている使わぬ鍵のひとつが私  
合鍵が水面を砕く瞬間の響きよあなたを震わせ給へ  
湖の酸素を集め錆びついてゆきますだから手の鳴るほうへ

chari

@greenchari2